

Endometrial endometrioid carcinoma, grade 1, is more aggressive in the elderly than in the young

蜂須賀, 一寿

<https://hdl.handle.net/2324/4772302>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名： 蜂須賀 一寿

論文名： Endometrial endometrioid carcinoma, grade 1, is more aggressive in the elderly than in the young

(高齢者の子宮体部類内膜癌, G1は若年者と比較し、より侵襲的である)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本研究の目的は、臨床病理学的事項および子宮体癌の分子学的分類に基づいた代用マーカーによる免疫組織化学的事項を用いて高齢者における子宮体部類内膜癌, G1の特徴を明らかにすることである。我々は長期予後を確認できた子宮体部類内膜癌, G1の268例を年齢により3群 (<40歳: n=24, 40-59歳: n=169, ≥60歳: n=75)に分けて、後方視的に解析を行った。高齢者 (≥60歳)の類内膜癌, G1では深い筋層浸潤を有意に多く認め、扁平上皮化生および前癌病変である子宮類内膜上皮内腫瘍を有意に少なく認めた。またp53蛋白異常発現を有意に多く認めた。予後解析では、多変量解析において高齢 (≥60歳)とFIGO 2009 stageが独立した無増悪生存期間の予後不良因子であった。高齢者の類内膜癌, G1は若年者の類内膜癌, G1と比較してより侵襲的であり、高齢は独立した予後不良因子であった。我々はBokhmanらの提唱した子宮体癌の組織学的内分泌学的分類におけるtype 1の子宮体癌を年齢に基づいて、若年発生、緩徐に進行するtype 1aと高齢発生、より侵襲的なtype 1bに分類することを提唱する。